

戦争を許さない女たちのJR連絡会

賀 正



# いのち輝く

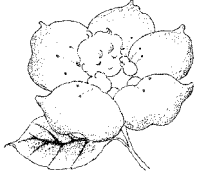


私たちのピーストレイン

今年も宜しくお願いします

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内 ☎ 03-3491-7191 JR 057-4596

## つくろう平和！ 子ども達の未来のために！



# “たしろかおる”さん

JR総連  
組織内候補

インタビュー

私たちは  
応援します!

### ★武力で平和はつukれない

Q：アフガニスタンの平和にとって何が必要ですか？

私は、JR総連の執行委員として、2001年末から5年間、アフガニスタンの支援活動に携わりました。カレーズ（灌漑用水路）掘削や小学校建設、寡婦と子どもたちの自立支援等を進めてきました。現地活動を通じて確信を持ったのは、「武器で平和は創れない」、「爆弾を落として民主主義は創れない」ということです。憎しみの連鎖がテロをつくり、戦禍が拡大しているアフガニスタンの現在の状況を見れば一目瞭然です。

国際社会は、一度、アフガニス



タンから手を引くべきです。そして、多少の小競り合いはあっても、国づくりをアフガンの人々自身に任せるべきです。その基本の上に、最低限の援助をすることがアフガンの恒久平和につながると考えます。現実には、国際社会のパワーゲームの中にあって、かなり難しいことではありますが。

### ★ヒューマニズムに立脚して

Q：立候補に際しての決意は？

私は、国政に身を置くことを決意するにあたって、すべての価値基軸に「人間性」＝「ヒューマニズム」を貫こうと考えました。今までの自民党政治は、政治と官僚と大企業が癒着し、働く者や市民を蔑ろにし、過渡の競争を強いることによって、人間性を奪う社会が出来上がっています。これを、働く者・弱者の立場に立ち共に支え合う温かい社会に創りかえていきます。その対極に位置するのが戦争を許す社会だと思います。

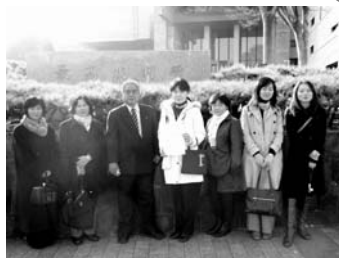
### ★女性たちは平和の守り手

Q：「女たち」に訴えたいことは？

戦争を許さない平和な社会を創る上で重要なのは、やはり「女性」の持つ「母性」だと思います。アフガニスタンの厳しい生活条件下で、子どもの命を必至に守ろうとする、あの姿は、忘れることができません。歴史上、戦争を主導してきたのは間違いなく「男」です。「女たち」の連帯をもっともっと広げて、戦争好きな愚かな「男たち」を是非、平和へと導いてください。私も、「愚かな男」にならないよう、実体験を基に武器に拠らない国際貢献のあり方、民生支援のあり方を提言してまいります。

## 最高裁に要請書を提出

12月25日、「女たちの会」は浦和電車区分会家族会や美世志会家族とともにJR東労組八王子地本の「最高裁への要請行動」に同行させていただきました。要請団は総勢25名ほど。最高裁への要請は月に一度受けるということで、12月は既に要請を実施したため、今回は門前で事務官に要請書を手渡すだけになりました。要請書は労働組合の団結権を保障し、7人に無罪判決を下すよう求める内容です。代表の12名は要請書を提出する際に、「口頭弁論を開いてください」「公正な裁判をよろしくお祈りします」など、訴えが最高裁に届くよう、それぞれ声を出して手渡しました。



今年は、JR浦和電車区事件・蒲郡駅事件ともに最高裁の闘いが正念場をむかえます。私たちは弾圧を許すことなく、必ず全員の無罪と職場復帰をかちとるため、広く真実を訴え、連帯を求めてたたかきましょう。

# 12・5女たち☆ 全国集会



# 人権・平和のネットワーク つくろう!いのち輝く明日を



▲代表の玉盛さん

2009年12月5日(土)、目黒さつき会館大会議室において、総会を兼ねた全国集会を開催しました。「人権・平和のネットワーク つくろう!いのち輝く明日を」をテーマに全国から書記や家族たち130人が参加しました。会場には全国各地の女たちの会から旗やパッチワークのタペストリー、横断幕などが飾られ、平和への思い、えん罪をなくしたいという思いが溢れていました。玉盛代表の挨拶のあと、大久保事務長から、経過と今後の取り組みについて説明があり、来賓として、JR総連の鎌田書記長、美世志会の大潤慶逸さん、蒲郡駅事件の加藤誠二さん、明倫中事件の大竹純子さん、布川事件の杉山卓男さんから挨拶をいただきました。



▲JR総連鎌田書記長 ▲美世志会の大潤さん ▲蒲郡駅事件の加藤さん ▲明倫中事件の大竹さん ▲布川事件の杉山さん

第二部では、高麗博物館名誉館長の宋富子さんの講演を聞きました。在日であることを背負い、生きてきた辛い過去、差別を受け正義のない社会の中で、現実をはね返して生きてきた宋さん。その生き方から積極的に生きることを学ばせていただきました(次頁)。そして、昨年5月、「韓国水曜デモと平和紀行」に参加したメンバーによるスライドを使った報告が行われ、集会アピールを採択して第2部が終了しました。

懇親会では、久しぶりに会う仲間との歓談の場でもありましたが、参加いただいた様々な場で闘う人たちからお話を聞き、交流を深める場ともなりました。無実の死刑囚・元プロボクサー袴田巖さんを救う会の門間さん、無実のゴビンダさんを支える会の客野さん、SO(スペシャルオリンピクス)の宍戸さんに挨拶をいただきました。

最後に、エンジェルのリードで「朝露」と「Love & Peace」を全員で合唱し、真に人権・平和を創ろうとの思いを共有して大成功で終了しました。

## 守ろう! 人権・平和



SOの宍戸さん



署名ご協力ありがとうございました!!

ブース会場



無実の袴田さんを支える会の皆さん



合唱♪エンジェルの皆さんがリードしてくれました



平和にピース♡



無罪のゴビンダさんを支える会の客野さん

多くの皆様から心温まるメッセージいただき、ありがとうございました。  
紀平梯子、杉山卓男、田中喜美子、十勝花子、森田美智子、船川均、船田功、秋山淳子、友田良子、佐竹京子、初鹿野恵蘭、女のスペース・おん、石田綾子、芝実生子、三浦良枝、朴慶南、星川一恵、石井宏子、小淵真理、大竹純子、客野美喜子、穂坂晴子、近藤日佐子、佐藤喜美子  
(順不同・敬称略)

隣のブース会場では、アムネスティ・インターナショナル、JVC、9条連、鉄道ファミリーなども出店していただきました。署名やSOのミサンガ作りなどたくさんの皆様のご協力ありがとうございました。

ソングジャ

# 宋富子さん講演「ありのままの自分を愛する～愛するとき奇跡は創られる」(要約)



私は在日朝鮮人二世で奈良県高市郡飛騨村の被差別部落で生まれました。父親が突然亡くなり、母親が女でひとつで5人の子供を養ってくれました。貧乏でしたが、自然に囲まれて遊ぶことに夢中にな

って、オモニ(母親)が大好きで、毎日遅くまでクズ拾いをしている母親の帰りを待っていました。

そんな母親が嫌いになったのは、小学校に入ってからです。「朝鮮人やジョンコヤ」って呼ばれてイジめられる毎日、小学校3年生で自殺しようと線路に行きました。中学校卒業しても、ろくに学校に行っていないから割り算もできない、小学校程度の漢字しか知らない、16歳から20歳まで26回仕事を変えました。履歴書に現住所を書くとバレる、バレたらいじめられるのを繰り返していた。そんなとき、川崎に嫁いだ姉の紹介で現在の夫とお見合いして、結婚しました。川崎は在日朝鮮人が多くて街の中に朝鮮のお店、朝鮮語が溢れている場所でした。朝鮮をもう隠さなくてもいい、幸せな結婚生活なのだと幸せな気持ちでいたら、1週間で夫がお酒を飲むと暴力をふるう人だとわかり、11年間殴られました。子供は年子で4人産みました。次女が幼稚園でイジメを受けて、私のときのように朝鮮人ってイジメられて死んだりしたら、私は生きていられないと思いました。友人が桜本幼稚園を紹介してくれて、李仁夏牧師と出会い、「聖書には自分を愛するよ

うに自分の隣人を愛せよと書いてあります。私は韓国人です。もう植民地支配ではない。自由なのです。」とおっしゃいました。自分を愛する？牧師の言葉が電気みたいに身体中を流れてきました。自分を愛して、他人を愛したら、平和を作れる、戦争もなくなる、人間の基本だ、人間の生きる目的ではないか。その晩、涙がとまらなくて眠れませんでした。それから5年間休まずに教会に通いました。そして歴史を知って、31年間私の劣等感日本の歪曲された教育によって植え込まれたこと、悪いのはこの国の政治と差別を作っている権力者たちとその構造なのだとわかりました。

私は、どうしたらこの小さな命で日本の自由と平等の本当の民主主義が作られるか、そう考え祈りました。一人芝居をし、講演をし、そしてお金をためて朝鮮と日本の歴史博物館を作ろうと思いました。2000年の高麗博物館の設立から、6年間館長を務めました。新聞も読めなかった私が、知らないことは恥ではない、無知は自分の責任、無関心は自分の罪、今から始めようと新聞もアルファベットもひとつずつクリアして、歴史博物館が開館しました。皆さんも是非、訪ねてください。そして自由と平等の民主主義を私たち市民で作っていきましょう。



## 戦争にNO！ 平和にYES！ 5回目を迎えた9条フェスタ

昨年(2009)の11月15日、「輝け9条！世界へ未来へフェスティバル2009」が東京・大田区産業プラザにて開催され、護憲団体やえん罪関係団体など約100団体が出展しました。当日、「女たち」は、えん罪浦和電車区事件の最高裁への口頭審理開廷を要請するハガキ行動への協力



を参加者に訴え、174枚の賛同を得ることが出来ました。また、19,778円のハガキ代カンパも集まり、「女たち」一同、心より御礼を申し上げます。

**\* 9条フェスタに参加したメンバーの感想 \***

浦電事件を知らない一般市民の人たちに、ハガキ行動への参加を呼びかけるのは気が引けたのですが、快く引き受けてくれる人や「頑張ってください」と言ってくれる人もいて、勇気づけられました。地道に声をかけ、浦電事件を広めていくことが、えん罪をなくす道へと繋がっていると思うので、これからも頑張っていきたいと思います。(東芳組 S・A)



# えん罪布川事件 ついに再審開始決定！

1967年に起きた強盗殺人事件・布川事件で犯人にでっち上げられ、29年間の獄中生活を余儀なくされた桜井昌司さん、杉山卓男さんが裁判のやり直しを求め訴えていましたが、ついに12月14日最高裁が再審開始の決定を行いました。刑確定から30年の年月を経て初めて最高裁は自らの判決の誤りを認める決定を下したのです。日本の裁判において再審を勝ち取ることは非常に困難ですが、これほど長期にわたる人権蹂躪は日本の警察・検察、裁判の非常識を露わにしたものと言えます。42年間無実を訴

えて闘ってきた桜井さん・杉山さんが12月15日、喜びの記者会見を行いました。二人を支援する多くの人々の地を這うような長い闘いが実り、再審開始の決定が下されたことは、支援してきた私たちにとってもこの上ない喜びです。

再審は水戸地裁土浦支部で開始されますが、今度こそ、苦しかった42年間の訴えのすべてが報われる裁判であって欲しいと願います。1月23日、「布川事件・守る会」



記者会見をする桜井さん（左）と杉山さん

は「最高裁再審開始確定報告集会」を開きました。会場は喜びの笑顔の中にも、二度とこのようなえん罪を生むことのないよう、警察・検察、裁判所の反省を求めるといふ思いが貫かれていました。

## 第16回「ななかまどの集い」 ひらく

11月7日札幌市に全道から女性50名が集まり「第16回ななかまどのつどい」を開催しました。

柏谷代表は、我は我という自我意識が強い人が多いこの頃ですが、人とのつながり、温かみの大切さを述べました。

来賓の榎本中央執行委員長からは、今のこの時代、労働組合の存在価値が問われており、平和のこと、社会正義のことについて考える有意義な時間にしてほしいと激励の挨拶をいただきました。

今年の講演は、現役の中学校教師で、「こども



と教科書北海道ネット21」の共同代表をしておられる平井敦子(右)さんをお招きし、「扶桑社も自由社もダメ！子供たちによりよい教



科書を」と題した講演をいただきました。

現場で生徒に教える立場の教師の苦悩に教科書問題があります。歴史の事実を曲げた教科書、時の権力者たちによって作られるもの。その教科書を教科書検定で採択させないためにも、教科書展示会で私たち一人ひとりが意見を述べることも運動の一つです。新しい教科書をつくる

会の「あぶない教科書」は、戦前・戦中の教育を再び子どもたちに押しつけ、憲法を改悪して日本を「戦争のできる国」に変え、国に命をささげる子どもたちをつくるもの。教育現場では「二度と教え子を戦争におくらない」、子どもたちが自分で考えて進んでいく人間性をつくってあげるのが教育と信じ、教師に課せられた責任の重さを話されました。

今回、9条フェスタとの連帯で、えん罪JR浦和事件上告審勝利のために、オリジナルハガキを作成して参加者全員で取り組みました。また、2010年5月18日の国民投票法施行にあたり、DVDを鑑賞し憲法9条改正にむけた準備が進んでいることも勉強しました。最後に、毎年メッセージを送ってくださる、ななかまどのつどい初代代表・淵上多鶴子さんの激励にも感謝の気持ちで一杯です。(ななかまど K・S)

### BOOK!

### 泣いたゼロ戦

靖国神社の遊就館、その展示ホールに“ぼく”はいる。一人称で語られる“ぼく”は太平洋戦争で「活躍」したゼロ戦。遊就館でゼロ戦と出会って、ぶな葉一さんの物語の世界が広がった。戦争によって死んでいかなければならなかった若者たちの無念の思いを伝えたいと、辛く悲しいゼロ戦の過去に思いを馳せる。ぶな葉一さんは、戦争放棄を誓った憲法9条のこと、美しい地球のことや命の大切さを感じて欲しいと願う。そんなメッセージがこめられた心優しい物語。わが子と一緒に読んでみては？



ぶな葉一・作／関口コオ・絵  
低学年以上 定価1200円＋税 銀の鈴社